

Research workers may realize the importance of being able to read the latest reports of advances <made in their studies> / as soon as they are published in foreign journals, / without waiting for a translator, / [who may or may not have the ability <to make an exact translation / with one hundred percent accuracy>].

S V O be able to do 「…することができる」
 過去分詞の修飾 = the latest reports
 不定詞の形容詞用法 ……関係代名詞の非制限用法

内容Check!

問 次の各文が正しければ()に○を、誤っていれば×を記入しなさい。

1. There are various reasons for people to study foreign languages. ()
2. Research workers think it better to wait for an exact translation of a report published in foreign journals to come out. ()
3. Students of literature have to be able to read a great work in the language it was first written in. ()

覚えておきたい表現

for the purpose of …ing 「…する目的で」

ℓ.2 : They may do so **for the** immediate **purpose of satisfying** the requirements of some public examination or **of getting** greater fun and enjoyment out of a holiday abroad. 「何かの公的試験の必要条件を満たす、あるいは海外で休暇を過ごす際により大きな喜びや楽しみを得る、といった目の前の目的のために学習しようとするかもしれない。」

・ for the purpose of …ing 「…する目的で」：ここは for the purpose of satisfying ... or of getting ... という構造になっている。本文では of の後ろに動名詞がきているが、名詞がくる場合もある。

Ex. I am studying this subject **for the purpose of setting** new criteria. 「私は新たな基準を設ける目的でこの科目を(今のところ)勉強している。」

- ・ may do so = may study foreign languages : この do は繰り返しを避けるために用いられ、代動詞と呼ばれる。
- ・ satisfy the requirement 「必要条件を満たす」：試験科目なので勉強する、ということ。

先行詞, who ... (関係代名詞 who の非制限用法)

ℓ.8 : without waiting for a translator, **who** may or may not have the ability to make an exact translation with one hundred percent accuracy 「翻訳者を待つことなく…その翻訳者は100パーセント正確に厳密な翻訳をする能力を持っているかもしれないし、持っていないかもしれない」

・ 関係代名詞の非制限用法では、先行詞と関係代名詞の間にカンマがあり、ここで文はいったん切れ、関係代名詞に続く節で先行詞に補足的な説明を加える。関係代名詞 who の場合、先行詞は人なので、who を and he (she) ... 「そして…」, but he (she) ... 「しかし…」, because he (she) ... 「なぜなら…」などの語句と置き換えて読むと文意がつかみやすい。ここでは who 以下で理由を述べていると判断できるので、「なぜなら翻訳者は…」と考えるとよい。

Ex. What Linda did may seem silly to Jim, **who** is ten years older than her. 「リンダのしたことはジムにはばからしく思われるかもしれない。というのも彼は彼女より10歳年上だからである。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

外国語を学ぶ理由の実例

1. 差し迫った理由のある人：(1) 公的な試験の科目として
 ◆ ℓ.3 or 「あるいは：列挙・追加」
 (2) 海外旅行先でもっと楽しめるように
2. 実業家：海外の情報を直接的・間接的に扱う必要がある。
3. 研究者：海外の専門誌で発表された最新の研究を翻訳が出るのを待つことなく読みたい。
 翻訳が100パーセント正確かどうかわからないのも理由の一部。
4. 政治的理由で外国の活動に関心を持つ人：外国の活動はその国の新聞や雑誌を読むことでしか知り得ない。
5. 文学の研究者：名作を原文で読めなくてはならない。

背景知識

●複数の言語を学ぶことについての考え方

複数の言語を学ぶことについて、言語学習者の知的活動を対象とした認知学習論の立場から考えてみよう。幼年期にはすでに母語(mother tongue)を操るために脳の情報システムが最適化されてしまっている。したがって、大人になってから外国語学習をする場合は、例えば外国語の音声情報や文法事項などの方に意識的に注意が払われるため、外国語を学習してもネイティブスピーカーと同等の運用能力を持つようになるのは困難となるのだとされる。これに基づけば、ある程度成長を経た者が外国語を学習する時には、学習そのものに対して特別に知的好奇心を持つことが必要になるという本文(p.256)の主張は正しいことになる。

では、幼児期に母語と並んで第二言語を学ぶのであればその言語の習得が容易になるのだろうか。言語学者(例えばイエスベルセン)によると、母語だけでなく第二言語を習得させる場合、通常「余りに高い代償」(『言語』p.352)を払わせることになるという指摘をしている。その代償とは「問題の子どもは、一言語だけに限定した場合ほどには、二言語のどちらをも完全にはまずもって習得しえない」ことである。こういう状態は「ダブルリミテッド」と呼ばれ、両方の言語の習得が中途半端な状態になってしまうことを指している。

【深めたい人に】：イエスベルセン著、三宅鴻訳『言語 — その本質・発達・起源』(岩波書店、1981年)